昭和48年11月17日　第三種郵便物認可 〈1〉
TEL 東京362-0149, 関西06-451-4803
発行所 蒼氓社 新宿区百人町1-11-31 斉藤ビル・504号室
叛旗 共産主義者同盟
号外 1974年5月30日（木）

6・18共産同政治集会へ

インフレー生活価値破壊へ、日常圏から反撃せよ！

全都、全国の志ある友人、諸兄姉に六・一八共産同政治集会への招待状を手元に届けます。現下の日本民衆を取り巻く政治、経済情勢は、強インフレ下の生活破壊の進行と、他方での七月参議院選挙へのセレモニーとして特徴づけられますが、我々は大所高所よりの新旧政治屋共の議論に先行して現存する、この白け切った生活圏における日常を直視し、そのからくりを暴き、敵を鮮明にし、勝利への門扉を見出してゆきたいと考えます。我々は今後更に激化するだろうインフレー生活破壊攻勢は、既成の経済斗争への封じ込めや、政策論へのみせかけの救済策では対応不能であり、より広く深い指標と実践による反撃をこそ民衆の側に問うていると思います。世の中が見えにくく、危機の予兆を力へ転化し得ぬ現況に直面する我々が片時も忘失してはならぬ物尺は、マルクスにならっていえば、まず全てを疑ってかかれという精神の柔軟性であり、だが人間が為す事は全て我と関係があるというのびやかな感受性です。自らを考え、主張し、為すべき事を為すという、あたり前の思考と行動の原則は、未曽有の危機に際し決して手離してはならぬと思うのです。更なる未知への航海へ向けて我々は正確な羅針盤を見出し、共有してゆきたいと考えます。

インフレの更なる激化は保革逆転で克服されるか？戸村選挙は三里塚闘争―新左翼の橋頭堡たりうるか？内ゲバによる絶対党派建設は、政治への民衆日常収奪を逆転しうるか？我々はかかる与野党、新左翼を通しての典型的な政治のレールに違憾ながら全て否だと答えざるを得ません。彼らが百度、国民や日本民族や労働者階級や急進的人民の名を大義名分とし、あるいは幻の党の側から苦吟する民衆を救出すると悲壮がっても、所詮はかって一度も政治の主人公となったためしのない民衆の日常の行末へ歯牙をもかけえぬことははっきりしていると思います。我々が七〇年以降指摘してきたように古典的「党―大衆」パターンは、日本の革命運動のみならず、政治社会構造の壁であり、桎梏と化しているのです。民衆に見捨てられながら、安逸な夢をむさぼっているドン・キホーテ達にくらべれば、インフレー生活破壊に対して自らの持場を防衛するという広汎な闘いのうねりの側にこそ〈戦後〉の経済成長神話、議会―組合補完を突き抜ける新時代の崩芽は培なわれていると言わねばなりません。

人は誰も公的、政治的に日常圏に住みながら、その安定の為という大義名分で、公的な政治的な世界を日常と疎遠なものとして産み出している社会と国家の仕組みこそが問い返されねばなりません。この生活圏と、社会―国家の仕組みの膿(うみ)が顕わになってきているというのに、多くの政治的な人々はこの流れを押しとめ、自民党に替わる国民の党や、反スタ党や、労働者党でフタをしようと善意によせ死に急いでいるのです。

政府、自民党は来年夏総裁選を射程に、福田蔵相等は総需要抑制―所得政策導入で財界の危機を救済せんとし、田中首相等は徳目教育、新ふるさと計画で国民再統合を為さんと角逐しています。通貨、資源、外交を含めて決して一国的に収拾不能なインフレと、他方での国民秩序の拡散、労働意欲の減退こそが、支配層のアキレス腱なのであり、だからこそ彼らはそれらの矛盾をごまかし、国民の眼をそらし、地獄への道行きに引き込まんとしているのです。たかだか七月参院選の射程で保革逆転を目論んでいるどの党の主張にも、この強インフレと生活価値破壊を克服しうる指標は見い出し得ません。憲法の尊守や、主要産業の国有化や、税制の是正で事が済むなら有難いことです。西欧での社会民主主義や、豊かな病めるアメリカ、ソ連や中国等の疑社会主義圏を含めての、世界的な国家―社会の壁が、民衆には直感しうるが、革新、革命政党には見えないし、見えても避けて通ろうとしているのです。

生活圏の危機は、民衆自らに権力像と日常の行方をこそ問うています。インフレの加速化は、電力、国私鉄、米価等公共料金値上げ、消費者物価へ上乗せされる石油等エネルギー源、原材料値上げとして留まる所を知りません。「国民春闘」における三十％の賃上げが、実質賃金目減り、所得政策導入の口実、日教組攻撃に見られるイデオロギー攻勢として、国民格差拡大と国民再統合へと収約されつつあるのは、スト権での敗北をも含めて、敵の土俵で「整然と秩序正しく」闘うという前提からして誤まっているからです。もちろん他方で、自主憲法草案―刑法改悪―徳目教育を支配層が強調し、推進せんとする時、民衆における日常的基礎は喪失しているのです。ここにおいて、出口なきインフレがもたらす生活危機は、戦後日本の政治、経済、社会編成の根幹に及ぶ総体的危機であること、それは現下の衣食住確保への危機であると共に、より深く近接未来のそれらへの不安であり、更に国民統合の基礎として遇されてきた日常圏での生活価値の拡散であることは誰の眼にも明らかです。自らが自らの生活の主人公になることに何の遠慮が要るでしょうか。ついでに、収奪されっ放しの権力をも自らに関係あるものとして日常圏に引き寄せてみてはどうでしょうか。ダメな国家とダメな民衆というもたれ合いは、その基礎から崩れつつあるのです。新しい時代と世界を獲得する客観的諸条件は出そろっています。自立と闘いの契機を我がものとすること、日常の実践の中でつかみとることは我々の不可避な迂回路でありますが、それは国家と資本のくびきから、個と生活圏の解放への必然的な回路であると思います。

さて、我々は右のような政治判断の下に、六・一八政治集会を行ないます。当日は、実践渦中の、反インフレ行動委連合、叛旗三里塚現闘団、光文社支援共闘のアピールをうけた後、政治組織としての我々の側からの見解を神津陽が、革命運動における理論と指針を権力―自己死滅までの射程で、インフレ下の生活危機と共同性―集団性の行方に焦点をしぼり基調提起を行ないます。

更に、思想的に摂取し、胸を借りるに値する数少ない先達としての吉本隆明氏が、「戦争が露出してきた」との昨春のチック労組集会での発言、「試行四〇号」におけるインフレ問題への言及に踏まえて、現下の国家、社会、民衆情況の根柢は何かを語ります。

白昼の下で日々悪戦を続けているまだ合見えぬ友人諸君、闘いと日常の指標を模索し、掌中にし共に歩もうではありませんか！

共産同政治集会

発言　吉本隆明・神津陽
日時　6月18日（木）開場5時
会場　日比谷公会堂

共産主義者同盟
TEL 03-362-0149

インフレ粉砕―刑法改悪阻止闘争の政治的・大衆的高揚を準備せよ！

参議院選の茶番を透視せよ

全都、全国の戦闘的な労働者、学生、市民の皆さん。日常的な生活過程からはますます疎遠なものであり、生活的諸矛盾に対してはより高慢であり、民衆の内発性に対しては抑圧的であるブルジョア政治と制度の最大の儀式＝選挙が、その念仏おどりを開始しています。「七夕選挙」とはよくいったもので、たまさかな大衆との逢瀬で、どちらが多く景気のよい「空手形」を乱発するのかという競い合いに、もっとも象徴されているのは、情況の指標―「インフレ」であります。それゆえ、私達は語の真の意味で、「参議院選挙」を「インフレ選挙」と呼ぶのがもっとも当を得た理解であると考えます。

ところが、この選挙たるや、ブルジョア政治の最大の儀式であるだけあって、日頃、インテリ然として「泰山」の如くの紳士諸氏や、「口先だけ」の左翼達が一喜一憂するのにふさわしく、「投機性―ギャンブル的」性質を内包した極めつきの「お遊び」ですから、本当は競馬場で日常的に見られる光景が全国化したものと考えてよろしいのです。日常性とは逆に、この期間「神様」に祭りあげられる「大衆」は「一票」として抽象化された人格で、「差別」や「抑圧」のない空想的な世界を浮遊させられることになるのですから、まったくたまったものではありません。

ところが私達は、この期間を通して進行する、政治―経済構造の「危機」的情況と、政府―ブルジョアジーをしての政治―経済基調の反動的転換を「座して待つ」程に寛容ではありません。今こそ、政治―経済構造の「危機」の性格を正確に見据え、政治―経済基調の全面的な反動化、政府―ブルジョアジーの「国民」統合の野望を粉砕する「闘い」の視座と武器をとぎすまさねばなりません。私達は、戦闘的な労働者、学生、市民の皆さんに闘いの視座と武器の研磨に向けた隘路を是示するとともに「情況」突破に向けた「戦闘への招待」を高らかに宣したいと考えます。

危機の構造と支配者階級の延命環

さて、私達は74春斗から今日に到る情勢の危機的深化と、他方でそれに対する民衆の生活的危機と支配層の支配的危機の構造を正確に見据えなければならない。

実際、74春斗の高まりは、労務官僚や社・共が企図するような保革逆転へと収約される政治基調からまったく逸脱し、労働運動の現場や市民運動の日常に於いて、そのエネルギーの拡散と深い危機意識へと転化している。それは何よりもまず、インフレ情況への正確な構造把握が彼らに欠落しているということ以上に、「革命運動は日常的生活構造を戦場とし、民衆の内発性や自発性を運動の理念や実践へ組織してゆくことである」という最底の条件を廃棄していることにもとづいている。参議院選挙の狂乱は、事実、このような原則的な情況からの根抵的な逸脱として政治や政策や運動や実践を骨抜きにしている。

さて、政府自民党が発表した参議院選への十二公約は、政府ブルジョアジーの政治経済政策の基調的転換を覆い隠したものとしてのみ意味を有している。ブル新等の「総花的であり、新味がない」という批評は、客観主義的批判の真骨頂であり、ブルジョアジーの選挙に向けた「空手形」の羅列は「インフレ選挙」の前景気としてのみ意味を持っていること以上に、意味はない。

それ故に、羅列的十二公約の背後で形成されている政治経済政策の基調こそ、74春斗以降の政府ブルジョアジーの転換意図であり、再編環であることを正確に見据えなければならない。

①まず第一に、彼らの再編環はインフレ矛盾に対する対応策、延命策である。「列島改造―高度成長政策」に示される60年代経済政策の構造的転換が意図され、世界的なインフレ圧力―スダクフレージョン構造下での転換が明確に意識されている。

70年代後半に於いて、日本資本主義が不可避とする「低成長、低生産、高賃金、高福祉」圧力に対して、支配者階級は自らの延命を「高福祉、高負担」論に象徴される政治経済政策を明らかにした。それは、インフレによる経済構造の綻破を独占価格―高物価体系の創出による独占ブルジョワジーの超過利潤―不当利得防衛を明言するものであり、所得政策導入による労賃の固定化策動である。そして、その階層的な矛盾を高福祉・高負担幻想による新たな民衆収奪体系で収約せんとするものである。

これは同時に、民衆の生産力思想の減退、労働意欲の減退に顕徴な民衆の日常的ライフサイクルの解体構造を教育、道徳、福祉幻想と、制度としての民主主義論強化を国民統合軸として意図するものである。このような経済統制的な基調転換は、価値観の公共性強調、政治行政優先型でのインフレ矛盾の隠ペイ策動であり、物価の「高値不安」を軸とする生活的矛盾を民衆に強制するものとして全く許すことができない。

②第二に、忘れてはならないのは戦後的な世界の体制幻想の解体が不可避にもたらす共同性の拡散、衰退構造に対しての支配者階級の危機感とその延命構造である。彼らは、全世界的に激動を開始している政治的社会的な民衆のたたかいに対して、共同性の側からの包括力の減退を規範国家、行政国家の強化で弾圧せんとするものである。

刑法改悪策動を頂点とする実定法総体の強化と禁止事項の拡大は、国家が包括性を失っている根拠であり、政経分離論の強弁や労働運動への政治弾圧をも含め、一切の集団域は規範的国家の介入の前にさらされている。それは、戦後的なあるいは、近代的な民衆の集団編成や運動、組織に向けられている。

権力構想の隘路と我々の途

さて、このような支配者階級の統制経済策動と規範国家の強調に対決し、それを粉砕してゆく主体の構造は二重の隘路を不可避としている。それはまず、幻想構造や経済構造を人間の自然必然過程として抽象する思想の作業と、現下の国家―市民社会構造を主体の側に引き寄せ、新たな変革の実践と経験を生み出す問題である。

私達は、前者の課題を過渡期世界の諸現実として透視する側から情況の指標―インフレを戦後世界の危機の現実と革命の現実性として導き出してきた。それは同時に、このような革命の現実性を新たな主体情況として創出してゆく前提的な作業としてである。ここで根抵的に重要なのは、過渡期概念を主体的なものに転化する〈かくめい〉の構想力である。

私達は、価値の源泉たる生活過程を透視しそこへ全情況を引き寄せ、新たな革命原理、生活原理、思想原理を生み出してゆく側に、構造的な「階級」、「国家」の基底を打ち立てなければならない。インフレ問題集団問題が、まず情況的に根抵的であるとするのは近代的な、戦後的な民衆の集団原理、関係原理、生活原理が破局的な構造を生み出しているからである。これは、全る擬似的な共同性や共同体思想が死刑を宣告されている、という意味している。

私達は日本の左翼が演じてきた、あるいは、現在も演じている共同性や集団性に対する退廃を撃つと同時に、民衆との共同性をめぐる確執を引き受けねばならない。情勢と主体の歴史的な構造を真に我がものとする隘路は、そのように存在している。私達、共産主義者同盟と全国反帝戦線連合は全力をあげてブルジョワジーの延命策動の退路を徹底的に粉砕するたたかいと、日常生活圏を戦場とする共同性の行方を賭した権力構想への思想的、実践的攻防を全面的に自らの課題として引き受ける。混迷を続ける日本の階級闘争の渦中でたたかい続ける戦闘的な労働者、学生、市民諸君に、私達は、参議院選挙に抗し、真に日本階級斗争の血路を血路たらしめる戦闘を開始することを全面的に呼びかける。共に戦場へ。

六・一五反帝戦線全国大会へ総結集せよ！

於・明治学院大学（[illegible]馬[illegible]）
6月15日（土）午後3時